

共通教育フォーラム

福井大学共通教育部



座談会：共通教育の現状と課題

12月23日、月曜日、教員5名、教務課職員1名、学生4名で共通教育に関する座談会を開きました。学部の新設や改組後、初めての卒業生を今年度送り出します。また、ここ数年、共通教育の抽選倍率が上がりすぎて、なかなか受講できないという問題もありました。さらには、AOSSAでの講義開講など新たな試みも行われています。そこで発生した問題や共通教育に関する思いを学生視点から話してもらい、多くの意見を得ることができました。また先生方にも授業への思いをいろいろ話してもらえました。

座談会自体は和気あいあいと進み、結構充実したものとなりました。これは、そのときの記録です。共通教育の現状を知っていただき、読んで楽しんで頂ければ幸いです。

出席者（円卓座席順）

安本 聖司（教務課学務総務・共通教育）

近藤 雄一郎（保健体育部会長）

教育学部男子学生

Dylan Jones（外国語部会長）

教育学部女子学生

井上 博行（情報処理基礎部会長）

国際地域学部女子学生

葛生 伸（大学教育入門セミナー一部会長）

工学部男子学生

高木 丈夫（司会、文京地区共通教育委員長）

まずは自己紹介から

【高木】 今日集まっていたいたのは、学部・学科が改組になって最初の卒業生がでるということで、共通教育を経験した学生の皆さんに、教員視線では思いつかないような、これから先どういうふうに通共教育を変えていったらよいか、ということの意見を出していただきたいと思います。まずは初めて対面する方たちばかりでしょうから、自己紹介をお願いいたします。私は、共通教育の委員長をしております工学部の応用物理学科の高木と申します。専門は物理です。

【工学男子学生】 応用物理学科から参りました。よろしくお願いいたします。今は数学の研究室に属していて、行列などの研究をしています。

【葛生】 応用物理学科の葛生です。所属は応用物理なんですけれども、専門の授業を今はやっていません。「大学教育入門セミナー」、「科学技術と倫理」、「科学技術と社会」、「生活の中の熱とエネルギー」等を担当しています。

【国際女子学生】 国際地域学部に所属しています。よろしくお願いいたします。

【井上】 国際地域学部の井上です。共通教育では情報リテラシー関係で携わっております。

【近藤】 教育学部の近藤です。専門は体育科教育でして、「スポーツ健康科学」と今年から「生涯スポーツと健康」という科目を後期に実施させていただいております。よろしくお願いいたします。

【教育男子学生】 教育学部で、専門は中等教育コースで保健体育を専門にしています。よろしくお願いいたします。

【Jones】 教育学部のジョーンズです。専門はイングリッシュ文学、共通教育は英語の「ライティングⅠ」を教えています。よろしくお願いいたします。

【教育女子学生】 教育学部の初等教育コースに所属していますので小学校教育を専攻しています。また英語教育についても学んでいます。よろしくお願いいたします。

授業の定員枠と抽選の問題

【高木】 それでは始めたいと思うのですが、まず一番、我々教員が欲しい情報についてです。共通教育で問題点は何であって、何を改善してほしいかなど、学生がどう共通教育を見ているのか、教えていただきたいと思います。

【工学男子学生】 抽選結果で、もし全部落ちた場合ってまだ埋まっていない所に名前を書くわけじゃないですか。あれって、自分が般教を受けているときは学校に来ないと分からない状況だったのですが、今はネットでできるのですか？

【安本】 今は、抽選の結果は学生ポータルでお知らせしているのと、追加の履修についても学生ポータルで通知しています。以前は早い者勝ちでしたが、今は Web Class のアンケートシステムを利用して、全部 WEB でやるようにしました。かつては学習支援センターに寒い時期の夜中に並んだりする学生さんたちが結構多かったのですが、それはやめました。それなので、その点は改善しています。

【高木】 その時代の人たちだったわけですね、君たちは。そういうことも含めて少しずつ変えていっているわけです。まずは抽選制度の話が出てきましたけど、何か他にはないですか。

【国際女子学生】 共通教育の課題や発表の内容で、科目によって不平等を感じるがありました。課題内容の重いものにあたったら、それだけでいっぱいになって、すごく大変な思いを何回もしたことがあるので、平等にして欲しいなというのもあります。

【高木】 そういうことの前評判について、学生みんなはわかっているものですか？

【国際女子学生】 サークルの先輩とかに教えてもらっているという友達が結構いて、私の学部というのは私たちが 1 期生なので先輩がいなく、私はサークルも入っていないので教えてもらえる人はいませんでした。このような状況で履修すると、すごく失敗をしたり苦し

い思いをしたということがあります。

【高木】 共通教育の合格率等のデータを我々は取っています。やっぱりあまりに合格率が低いと、授業の立場の改善をお願いしたりもしているのですがどうもね。

AOSSA での授業

【教育女子学生】 AOSSA 開講の授業も共通教育の履修登録というのは、たしか先着順だったと思うんですけど、抽選に変えていただくと学生としてはありがたいと思っています。

【葛生】 定員が埋まってしまう授業のことですよね？

【教育女子学生】 はい、そうです。AOSSA の授業は、全体的に人気がある印象です。共通教育の面白さは、色々な分野の先生から話が聞けることだと思います。AOSSA の授業は他大学の先生の話が聞けますし、オムニバス形式の授業も在りました。

【工学男子学生】 AOSSA 科目で「福井方言と標準語」を受講しました。クイズ形式で授業が進められていましたが、福井出身の私でも 8 割分かりますでした。

【国際女子学生】 AOSSA の授業は、県立大学などの他大学の友達と一緒に受講できたのが良かったです。集中講義でもリレー形式だと担当者が変わるので、気分の入れ替えがあり集中力が続きました。

【高木】 定員充足の問題は、年度にもよりますが、最近ちょっと倍率が下がっていますよね。

【安本】 「実践恐竜学」などが人気はあるんですけど、枠が数名とか 10 名以下ぐらいしかなくて、やっぱり先着順でバーっと埋まってしまうというのは去年くらいまでありました。今年は抽選に当たる科目数が結構増えてきたみたいで、今は逆に減ってきている状況なので、抽選にしようかどうか悩みどころではあります。

【高木】 抽選制度の他に何かありますか？

【工学男子学生】 AOSSA での授業は、福井大学の時間割通りの時間ではないですよ。例えば、3 限は 1 時からじゃなくて、AOSSA では 1 時 45 分から 3 限が始まります。それなので、4 限と被っちゃうので、時間割を見ながらじゃないと履修を決められないので、合わせてくれたら助かるなと思っていました。

【葛生】 移動時間の問題もあるのでしょうかね。

【高木】 AOSSA で開講している全部の大学で、一度考えなきゃいけないですね。

【工学男子学生】 テレビ配信の授業は、AOSSA での授業と比べ移動に伴う時間の心配がないので良かったです。



【国際女子学生】 受けたい科目は履修できなかったので、AOSSAの集中講義を履修しました。

【教育女子学生】 抽選に一つも当たらない学生もいるなど、不公平感がありました。少なくとも一つは当たるように工夫してほしいと思います。

教育学部の問題

【教育男子学生】 教育学部にもキャップ制があり、共通教育と専門を合わせると30単位を超えてしまう問題が起こります。教育学部の多くの学生は、小学校と中学校の両方の教員免許を取得するため専門科目が多くなり、共通教育を含めるとどうしても上限を超えてしまいます。また、隔年開講の専門科目が多くあり、開講年にその科目を履修する必要があります。さらに非常勤の先生が担当されている隔年開講の科目があり、先生の都合で共通教育の時間帯に開講される場合もあります。

【高木】 その他にないですか？

【教育男子学生】 教育学部だけかもしれませんが、分野ごとに単位数が決まっています。自分のとり方にも依るのですが、自由履修枠が残っているならよいのですが、1個の分野が残っているとき、その分野を、3個全て抽選で希望しても、当たらなかつたりして結構大変です。

【高木】 このような大変な状況だったのは、認識しています。集中講義とかを利用することを勧めています。

【教育男子学生】 僕も1個集中講義で取りました。自分が取りたいものが、同じ時間枠に集中していることもあり不便に感じることもあります。

【高木】 これは、最初の設定がまずかったです。今は科目をバラけさせるようにして、かなり改善できたと思います。確かに今までは不便をお掛けして、申し訳なかったと思います。

抽選に当たった学生の欠席の問題

【教育男子学生】 体育の先生の共通教育の授業は実技であり、チームを作って行るので。そこで休まれると困る場合があります。

【葛生】 授業をする立場から言えば、抽選に漏れた学生を入れてあげたい気持ちはあります。

【教育女子学生】 途中から授業に出るということは大変であると思いますが、それでも履修希望する学生は意欲があると思います。履修の段階で学生の意欲を考慮してほしいです。

【高木】 なかなか意欲を測ることは難しいです。ただ、成績下位2割の学生が受講放棄も含めて共通教育の

不可の成績の7割を占めています。改善の必要があります。

文理融合科目について

【高木】 「現代社会とキャリア・アントレプレナーシップ」などの文理融合科目は面白かったですか。

【国際女子学生】 そうですね、今振り返ってみると、そういった分野は結構ためになるっていうか、何か役立つような感じがすることがあって（**【高木】** これからさき？）楽しいなって、思いました。

【教育女子学生】 福井の色々な企業を知れるきっかけにもなりました。

【高木】 「現代社会とキャリア・アントレプレナーシップ」とか、いろいろ経営工学とかいうそういう授業は、結構流行りですが、やっぱりおもしろかったですか。

【葛生】 自分でも、ビジネスプラン考えるような、授業じゃなかったですか。

【国際女子学生】 それはなかったですね。

【高木】 工学の中でも文理融合というと何かやたらと人気があるのですが、そういう意味で、文理って言うことを分けて考えること自体あまり良くないのかもしれないのですが、文系の人にとってやはり面白いと思える授業は？

【国際女子学生】 はい取りました。

【高木】 で、やっぱりどんな感想ですか？

【国際女子学生】 文理は、こちらを取れるのもいいと思いますし、福井のいろんな企業を知れるきっかけにもその講義を聞いてなったので、よかったなと思っています。

【高木】 では、いろいろそういう講義を増やせていうこと？ だって、文理融合って今いろいろ謳われているので、そういう感想が聞きたかったんですね。やっぱり、このあと役にたつと、思っていますか？

【国際女子学生】 はい。思います。

【高木】 そうか。他の授業は役に立たないってわけじゃないでしょうけど（笑い）その思いが、やっぱり強いのかな。

教員の授業への思い

【高木】 それでは、どういう思いで、共通教育の授業をなさっているかですね。ちょっと先生方の意見を聞いてみたいですけど？

【葛生】 学生がどういうふうに感じて、考えているかが分からないというか、勘違いしていたところがあって、それを知りたいと思っています。最近では学生に対する

理解が大分変わってきましたが、学生の認識タイプがよくわからなくて学生との対話の手段として、毎回ワークシートを書かせ、授業の最後に、欠席者を想定して授業内容を書いてもらっています。それを通じて、学生がどのように感じるのか、どのように説明したら良いか、課題を与えたら良いかを知る手段になっています。前と同じ内容のことを言っているんだけど、全然、学生の感じ方、反応が違ってくことを体験しました。共通教育の授業を通じて、自分の学科だけではなく、いろんな学科の学生を見るようにして、どういう考え方をするのかということを感じたいという気持ちが一つですね。

それから、「生活の中の熱とエネルギー」という授業は、かなり教育学部の学生を意識して、開講しました。改組後の2年間は教育学部の学生がたくさん出席してくれて、それなりに成果がありました。どうしても理工系の授業は、数式とか、データが中心になるけれども、それを使わないで、いかに伝えるかということを試みて、学生がどういうふうに反応するかということやってみたいと考えました。ある意味では、ちょっと実験しているような気持ちで共通教育をやっています。

【高木】もし学生さんで、何か思ったことがあったら言って頂いていいですか。

【教育男子学生】僕、先生の共通教育の授業を受講したことがあるのですが、やっぱり工学部の分野に入らないですか、先生の、科学・エネルギー分野ですか。そこは、僕文系なのですが、教育学部とか文系の人から見たら難しい分野なので、取りたくないですね。自由選択の中でも、結構難しい先生が多かったりするので、取りにくいところなんですけど、先生のように教育学部とかの学生も配慮して、授業をしてくださると、すごい受け易いってうか。分かり易いし。

【高木】はい

【葛生】ネタを明かすと、教員免許状更新講習で行っていた内容を授業にしたんです。実際には、更新講習に幼稚園から高校の先生まで受講していただきました。高校の先生も英語とか、国語とか地歴・公民、とかそういう先生も受講して、それなりに理解していただきました。それを授業にしたんです。

【高木】実は理系離れみたいな話がちょっとあるんですね。そのことは、また後でお話しますけど。ありがとうございました。井上先生なにか？

【井上】私は、主に「情報処理基礎」担当をしています。高校でもおそらくやっていると思いますが、意外とみんなできない(笑)。まあ Word 程度は使えるかも

しませんが、1から教えているような感じですか。特に Excel は、大学に入ってからの方がよく理解できるようです。こちらはもう少し高度なことをしてもいいのかなと思いつつ、高校の復習から始めるような状況です。それでよいのかと少し歯がゆいところもあります。ただ、現状としてきっちり繰り返し教えないと、皆さん身につかないなあというのが、少し感じたりしています。

あと、最近いろいろ話題になっているデータサイエンスの話があり、この「情報処理基礎」で何とかならないかという話も出ています。国際だけでなく元々教育地域科学部の方でも教えていましたのでよくわかりますが、文系の学部でデータサイエンスのあたりも含めると、先ほどと同じ文系の学生の議論となり、学生から拒否反応がでてくるんだろうなと思っています。現在はネット社会ですから、ネット上でのマナーや情報倫理が大事で、「情報処理基礎」の中に入れております。工学部の場合はプログラミングなども組み込まれている学科もあるので問題ないかもしれませんが、特に教育、国際地域になってくると、テクニカルな話をどこまで落とし込めばいいのかというのが悩みどころかなと思っています。

それと、今、私の専門授業でやっていることは、データ分析などを行っていますが、文系の学生を対象とした授業なんですよ。だからほとんど共通教育でやっているような内容になるのかなと。工学部の学生さんにとっては先程の科学技術の話に近いもので、文理融合的な内容になっているのかなと思っています。数式をいかに使わないでやるかという工夫もしていますが、実際に集めたデータ等使って実践的に行ったりしています。普段私がやっている専門授業と共通教育で接点があるので、同じような悩みどころはあります。

ところで、学生さんの立場で、今の「情報処理基礎」はこれでよいと思っていますか？

【高木】いかがですが。教育とか国際地域の学生さん、「情報処理基礎」の内容は？

【井上】ま、忘れていたかもしれませんが、1年生のときですから(笑)。

【高木】どうですか？

【教育女子学生】はい、私自身としては結構苦手なので、Excel の詳しいことなどを教えていただいても、すぐ忘れてしまうことが多いので、もうちょっと内容を簡単にしていただけるとありがたいなと思います(笑)。

【高木】ありがとうございます。

【国際女子学生】私も、難しいことは忘れたんですけど

ども、なにか使えそうな内容を繰り返して教えていただけると、役立ちます。

【教育男子学生】 使う場面があまり日常生活とか、普段無いんで。Word とかはレポートでよく使うんですけども、Excel はどうしても使う機会がなくて。卒論とかそういうので、必要になるとちょいちょい使ったり、というのがあるのですけども。日常生活で使わない分、実用できないというか、教えてもらってもどうしても忘れてしまうので、ちょっと難しいなってところがあります。

【井上】 専門的にどう使っていくかと言うところになると、体育ではやっぱりデータが出てきますからね。そこで、初めて分かるんじゃないかなと思います。だからそういう所とのつなぎがなかなか難しいんですね。

【葛生】 例えば、教育学部の学生さんだったら、どうやって成績つけて、記入するだけで最終的な評価がだせるかとか、そういうことなら興味持つことはないんですかね？

【高木】 それはある。

【教育男子学生】 何か自分が使うものじゃなくて、ただ Excel を教えられているだけなんで、それだと難しいですね。(笑)何か。実際こういうのに、実用できるとか、さっき先生がおっしゃったように、成績のつけ方とか、教育的な側面が強いと、自分たちのためにはなるかなと思います。

【高木】 いまは、キーボードが打てないですよ、学生さんたち。昔はパソコン使っていたんですけども、スマホになってから、スマホは打てるけどキーボードが打てない。そういう、状態に今なっていて、そこをまずクリアするのがちょっと大変ですよ。

【葛生】 確かに最近レポートも、スマホで打ってポータルに提出してもいいですかって、言ってくる学生も若干ですがいます。

【高木】 あとデータサイエンスなどで、まず「情報処理基礎」をどうするのかというのが、工学部では話を始めて、一度このキャンパスで全学的に話し合いをしなければいけないということになると思うんです。なんか、もう大学でどうするんだという話も降りてきていますので。そこはこの先、お話をしたいと思います。近藤先生。

【近藤】 はい。私は、共通教育ということで、今年は工学部も体育必修だったので、そちらの方を前期担当しました。そこでは自分の好きな種目を選んで学生は来ますが、もちろん選んだ種目が得意な人もいれば、苦手な人もいるので、どちらかという苦手な人を底上

げしつつ、最終的にはみんなでゲームを楽しんでいけるような授業設計をして、みんな最終的には授業も楽しんでゲームをやってくれた印象があります。後期に開講している「生涯スポーツと健康」という授業では、学生が体を動かす機会が少ないという現状、それとやはり学生からすると少しの時間でも体を動かす機会を設けてもらいたいという要望を少人数ですけど、受けていました。そこで、できるだけ体を動かす機会、種目を2～3時間ごとに変えていながら、いろいろなスポーツに親しんでもらって、その後自分にあったスポーツは何なのかなということを見つけてもらって、卒業後何かしらスポーツに親しんでいただければいいのかなとの観点で授業をやっています。その他に、教育だったり、国際、工学部のいろいろな学生が受講してきますので、毎回班を変えていながら、メンバーを変えていろいろな人とコミュニケーションが取れるような形でグループ編成とかをして、コミュニケーションという部分も大事にしています。あと、やっぱり実技だけでは授業が成り立ちませんので、講義も入れて、専門的な部分も知識として身につけてもらいたいなと思っています。なかなかスポーツを専門としない学生からすると、まだ若いので健康と言われても実感がわかなくなったり、スポーツに関してこれをやったらこういう効果があるんだということも言ってもなかなか実感がわかなくなったりします。今年1年やって、来年度そのリアクションを授業改善に反映していこうかなということも考えているんですけども、まずはやはりスポーツの楽しさであったり、やることの大切さというのを、伝えていくことを大事に授業をやっているつもりです。

【高木】 体育を受けて、どういうこと思ったかをせっかくの機会だから教えていただければと思います。何か。

【工学男子学生】 良かったかどうかですか？工学部の場合は2学科合同なので、違う人と喋れるのはいいかなと思いましたね。

【高木】 実は僕もそうだったですね。学生時代ちょっと違う学部の学生もいたんですけど、普段会話しないけれども、やっぱりスポーツやると会話せざるを得ないですね。あれはすごくよかったのだと思うんですよ。文学部の学生もいたし、医学部の学生もいたし、薬学部もいたし、それは、何か一緒に、好きな種目、バレーボールだったんですけども、それは必ず何か会話しなければならぬ。やっぱり楽しかったですよね。…体育受けました？

【教育女子学生】 体育受けました。

【高木】 教育はあるんですね？

【教育女子学生】 はい。あります。先生がおっしゃったように、何か体を動かす機会を得られるということは、一番よかったなと思っています。

【高木】 運動習慣はありますか？

【教育女子学生】 まじないですね（笑）。

【高木】 あなたは（教育男子学生に向かって）、体育が専門ですけど、何か言いたいことがあります？体育その種の専門家として

【教育男子学生】 専門家？（笑）やっぱ、大学1年生のときなんで、高校生の時覚えてた分、まだみんな動けるといのか、運動習慣、完全になくなったというよりははまだある人らが多いので、1年生のときの共通体育は、わりとみんな動いたりとか、しているんですけど。今の共通教育の普通の木曜日の1限目だと、3年生の人とかなってくると、もう運動していない人もいたりするんで。そうすると、やっぱり、もっと運動したらいいよと思うような動きであったり、そういうのが見えてきます。しっかりと運動することの大切さっていうか、運動しない人を見ていると、もうちょっとカリキュラムでもいいんで、運動する習慣等をつけてあげた方がいいのかなと思うんですね。なかなか、すごい運動してこなかったんだと思う人もいたりとか、喋っているとこれだけしか運動していない人がいるので、そういう人にとっては、いい機会でもあるんですけど。やっぱり、コミュニケーション取る部分では、他の学部といろんな、（高木）先生もおっしゃったように、どうしてもコミュニケーションをとらないといけないところなんで。回を追う毎に、いろんな人と交流深められたりとか、いろんな学部の話の聞けたりとかするんで、そういった面では、すごいいいことやな、と思います。

【高木】 運動する機会、減りますね、確かに。

【教育男子学生】 そうですね。

【高木】 高校時代運動していたんだけど、大学体育のバレーボールでスパイクしたら亜脱臼したんですよ（笑）。ちょっと病院に行かなければいけなくなって、運動しないとそうなるんだなと思います。

【葛生】 昔は、2年生までやってましたよね。だから、そこが違うんですけどね。1年、2年で違うものをとったりとか、合宿制のスキーをとりましたけれども、選択肢がいろいろあってバラエティに富んでいたんですけど（笑）

【高木】 Jones先生なんかどんなふうに教えているのですか？

【Jones】 ぼくも、運動が好きですけども、Excelはごめんなさい

【一同】（笑）

【Jones】 今、皆が言ったとおりかな。いろんな学部から楽しんで、すごくフレッシュな雰囲気だとか、色んな人とコミュニケーションをとれるし、うん、それはいい。けど、逆に時々、レベルとか、やる気は違うですね。僕の「ライティングI」の授業も、30分くらいかけて、色々書く人は2～3ページ、書かない人は2～3単語（笑）

【一同】（爆笑）

【高木】 やっぱり、レベルがいろいろ違うのは大変ですか？教えるのに。

【Jones】 そうね、でも、Subjectは全クラスじゃないんだけど、そういうことかな？あとは、ちょっと細かすぎるかもしれないけれども、成績評価基準は、国際地域学部の学生がいたら、違うシステムですか？

【高木】（相槌）

【Jones】 ポイント？僕は、どうかな？優しいか厳しいか、わからんけど、例えば82点、僕の場合では結構いいですよ。でも、そうすると、国際地域の学生だとどのくらいですか？

【国際女子学生】 Bマイナス

【Jones】 Bマイナスだから（学生にとっては）ショック、Bマイナスしか出ないよ！

【高木】 語学の授業で学生さん何か？思うところありますか？

【国際女子学生】 私自身の反省でもあるんですけど、最初の1年生の前期に、すごい英語とかいっぱい共通教育でありますけど、ここで、やる気を持ってすごいまじめに取り組んだりしていれば、すごい、英語力って上がったのではないかな。高校の時期に、ちゃんとやったかやってないかですぐいあとあとに影響してくるというのが、今、みんな見ていると思うし、ここで良いクラス、点数の高いクラスとか、そういうところにいた人はすごい、いいところ留学に行って、英語も今ペラペラで、みたいな感じだったんで、ここの英語は、もうちょっとちゃんとしておけばよかったなあ、とは思います。

【高木】 1年前期で、うまく自分自身のスイッチがはいらなかったの？

【国際女子学生】 まわりのレベルが高くて。自分はなんでこんなところにいるんだろうって思って、そこですごい挫折してしまって、何かそこからうまく立ちあがれなくて、ずっとただただと来てしまいました。最

初のテストで、振り分けられる、と思うんですけども。最初のときは、その高校の Writing とかそういうのがまだ残っていて、うまくいくんですけども。やっぱり、Speaking とかだと、高校でそんなやってなかったりするんで、そこですごい、苦しい思いをしたんで、もうちょっと頑張ればよかったなと思います。

【高木】 英語に限らず、高校から大学に入ると、学問の概要が違って、ちょっとびっくりするんですよね。多分。誰でもそうだと思うんですけど。そこでやっぱりちょっと、こっちも注意しなければいけないし。

【葛生】 特に英語とか、コンピュータのプログラミングなどは、入学段階で、学校教育のレベルを超えている人が、中にはいるんじゃないですか。そのような学生もいる中で英語を学んでいるのは、結構大変じゃないかなという気がするんですけどね。

【高木】 そうそう。

【葛生】 学校でいくら頑張っても、それ以上のすごい高いレベルを既に修得してしまっている人もいるなんて。

【高木】 それは、あまり、こういう感想を聞く機会がないんですよね。学部の中でも、そうしないと問題点がなかなか分からないということがあります。そういう意味ではですね、どうでしたか？

【国際女子学生】 そういえば、英語は、やっぱり Speaking する機会が高校までなかったんで、その点では苦勞はしたんですけど、Jones 先生とかその他の英語の先生方が、すごい優しい方で、たくさん follow してくださったので、そんなには苦勞はしなかったです。

【高木】 優しいことは大事ですよ。

【一同】 (笑)

【高木】 英語で何かありますか？

【教育男子学生】 そうですね。英語は得意じゃないというか。英語を書いたりとか、問題解いたりするのは、あんまり好きじゃなくて、どっちかというコミュニケーションをとる方が僕は、好きやったんですけど、やっぱり、先生によって、厳しい先生と優しい人がいると思うんです。

【一同】 (笑)

【教育男子学生】 その時に、英語って好き嫌いってすごく変わったりすると思うんですよ。だから、大学入って、Jones 先生の授業を僕は取ったんですけど、その授業のときはすごく楽しかったです。

【一同】 (笑)

【教育男子学生】 共通教育の英語は、何かあまり話す機会も、僕のクラスでは無くて、どっちかという、先

生が授業するという形が多かったんで、高校の英語とあんまり変わらないところがあったんです。そうなってくると、高校の英語はあんまり好きじゃなかったんで、楽しくないなというのが。やっぱり大学だからこそ、もうちょっと実践的なことをして欲しかったなと、というのがあります。

【葛生】 これから小学校へ行ったら教えなければいけないんでしょ、英語。どうですか？

【教育男子学生】 そうですね。やっぱり、小学校で教え、何か僕たちよりも、絶対、小学生の子たちの方が、いま英会話教室と、親の（海外）赴任先に子も行ったりとかして、僕たちよりも発音良かったりと、英語ができる子が増えてきているんで。となると、そういうのに行っていない子も出てきて。そういうレベルの差というのも、今問題になってきて、僕もできるかといったら、そんなできる方でもないんで。だから国が喋れる英語を求めているんですけど、そうなってくると、英会話教室に行った方が、僕的には絶対喋れるようになるし、学校教育で求められているのは、ちょっと、レベルが高すぎるなというのを、すごい思います。

【高木】 そうですね、今は外国から国内への就労者もいるので、まあ、その子供はもう、日本語を話しちゃうと思うんだけど、そこのとこが必要になってくるのかなと。



自然科学離れについて

【高木】 自然科学離れが起こっています。自然科学を取らなくてもよくなっている。担当するある学科の専門数学の受講率が5パーセントとなっています。自然科学の受講についてどのように思っていますか？やはり、取りづらいという意識があるのでしょうか？来年度に自然科学科目が増えるのですが、それで受講者が増加するのが疑問です。

【教育女子学生】 自然科学の分野はどういった授業がありますか？

【安本】 社会経済・科学分野の科目があります。その下の方に自然科学があります。せっかく定員数が割とあるので、受講生があまりいません。

【高木】 自然科学の分野を取らなくても、単位は充足できるのですが、敷居が高いのでしょうか？要望もありましたら教えてください。

【教育女子学生】 「ヒトの生物学」を取りました。微分や積分よりも親しみがあり、シラバスを見てテストよりもレポートの比重が高く取りやすいと思いました。自然科学の中でもテストの割合が高い授業だと不安が在って履修しない、というのがあります。

【高木】 確かにこの分野から2つ取れ、と言われたら大変かも知れませんが。

【教育女子学生】 はい。

【高木】 そういうのでは文理融合の科目で、経営学などはよいかもしれませんね。

【葛生】 理系科目は、地域コア科目の中にもありますよ。

【教育男子学生】 ここの分野だと教育学部は日本国憲法をまず、取らないといけなくて、その段階でまず、選択として1コマ無くなってしまいます。この分野は工学部の先生が担当されていて、テストの割合が大きいです。テストの割合が多いとやはり取りづらいと思います。ああ、テストか…となってしまいますから、レポートにして欲しいです。どちらかというと、自分の専門に時間を割きたいですから。科目名が難しそうだと取りにくいと思います。科目名が難しそうだと、「なにこれ？」となってしまいます。シラバスが難しそうだと取らないですね。選択肢に入ってきません。シラ

バスに専門用語が盛りこんであったりして…。学生はシラバスを選ぶ際に見ていると思われるので、解りやすく書いてもらいたいですね。分かりやすく書いていたら、まだ「取るかな」と思います。

【高木】 分かりました。シラバスは結構読まれていますね。

【国際女子学生】 今言ってくださったのと同じ意見ですが、この中だと「政治学A」を取りました。この分野だけ選択にすごく迷いました。工学部の人たち向けの授業が多くて、テストで落とされるだろうなと思って取れなかったです。この分野は易しくしてもらえると、私達、国際の人でも、もう少し取り易くなると思います。その他に、シラバスをあまり書いていないやつだと、「これはなんだろう？」と、取ってしまってから結構失敗した、というのが何回かあったので、シラバスは「こんな事をやるよ」と、ある程度詳しく書いて欲しいです。

【高木】 経営工学のような文理融合型のものもありますよ。

【国際女子学生】 そうですね、これなら取れそうです。

座談会の最後に

【高木】 工学部でも、このような座談をやってみたんですが、やはりやってみるといろいろ問題点が出てきてすごく面白かったと思います。学生さんも、選ばれた人たちだと思うのですが、いろいろ発言してくれました。臆することなく教員と対等に話していただけて大変にありがたいと思います。この後、この座談会の内容はフォーラム誌に内容をまとめて載せたいと思います。また、今回頂いた貴重な意見は、共通教育の運営に反映させたいと思います。

共通教育の 理念

共通教育は、学生に広く学問の知識や方法を修得させることによって、グローバル化した社会や知識基盤社会に対応できる総合的な判断力と行動力を有し、地域社会の発展に貢献できる人間性豊かな社会人となるための「教養」を身につけさせるとともに、円滑なコミュニケーションの基盤となる高い語学力及び専門科目の履修に必要な知識等を修得させることを目標とする。

編集後記

教育の国際通用性評価において、教育システムへの学生参加が推奨されています。実は、私が大学院生時代を過ごした大学では、既に学生参加は確立されていて、院生代表として何度も参加したものです。今回は教員としての立場でこの座談会に臨むことになり、感慨深いものがありました。

座談会を行ってみて、共通教育は制度的にも学問的にも問題解決のための自由度が高いものの制限も多く、解決の難しさも感じました。しかしながら、学生と対面して意見を得られたことは貴重でした。教育制度がうまく運営できているかの確認のためにも、定期的にこのような意見交換を行うことが必要なようです。 (高木)

【編集委員：井上博行、葛生伸、近藤雄一郎、高木丈夫、Dylan Jones】

福井大学共通教育フォーラム

●発行日 2020年3月25日 ●発行者 福井大学共通教育部

●連絡先 学務部教務課 学務総務・共通教育担当 Tel 0776-27-8627 Fax 0776-27-8519 E-mail:kyoumu-soumu@ml.u-fukui.ac.jp